

早稲田大学大学院文学研究科

東洋史学コース

説明会資料

2024年度5月

東洋史学コース室

早稲田大学大学院文学研究科 東洋史学コースについて

■文学研究科東洋史学コースとは

「東洋史学コースでは、アジア諸民族の歴史と文化の研究によって、それぞれの民族がもつ固有な価値体系を究明し、多元的な価値認識を基礎とした世界史像の再構築をめざしている。それは、ヨーロッパに発する近代知の枠組みを再検討する知的営為でもあり、新たな時代を担う者に要請される新しい世界観の構築でもある。講義、あるいは研究指導を通し、史料批判の訓練を行うが、史料批判こそは、歴史的思考法の前提とすべき訓練でもある。そのようにして体得した技術によって 各自の個別研究を深め、新しい世界を開いていくことをコースの教育方針としている。」

■東洋史学コースで学ぶこと、目標

修士課程：2年間の課程を通じ、研究の基礎となる修士学位論文を作成する技術・知識。

博士課程：3年間の課程をもとに、博士学位論文を制作し研究者として自立するための素養、及び個別論文の実績。

■東洋史学コース専任教員

柳澤 明 教授（清朝史）

飯山 知保 教授（中国前近代史）

柿沼 陽平 教授（中国古代史）

植田 喜兵成智 講師（朝鮮史、東アジア史）

■現在（2024 年度 4 月 1 日時点）の東洋史学コース在籍者数

修士課程 1 年： 2 名

修士課程 2 年： 2 名

修士課程 3 年： 0 名

修士課程 4 年： 0 名

計： 4 名

博士後期課程 1 年： 0 名

博士後期課程 2 年： 1 0 名

博士後期課程 3 年： 3 名

博士後期課程 4 年： 1 名

博士後期課程 5 年： 6 名

計： 1 7 名

○総計： 2 1 名

※留学者・休学者を含む

東洋史学コース カリキュラム（2024年度）

【表Ⅰ】特論・演習

科目名称	種別	時限	配当学期	単位	担当教員
東洋史学特論 1、2	特論	金 4	前・後期	2・2	植田 喜兵成智
東洋史学演習 1-1、1-2	演習	火 4	前・後期	2・2	植田 喜兵成智
東洋史学特論 3、4	特論	木 3	前・後期	2・2	柿沼 陽平
東洋史学演習 2-1、2-2	演習	木 4	前・後期	2・2	柿沼 陽平
東洋史学特論 5※ ¹ 、6	特論	木 3	前・後期	2・2	飯山 知保
東洋史学演習 3-1※ ² 、3-2	演習	木 4	前・後期	2・2	飯山 知保
東洋史学特論 11、12	特論	火 3	前・後期	2・2	柳澤 明
東洋史学演習 6-1、6-2	演習	火 4	前・後期	2・2	柳澤 明

※1 ……2024 年度の特論 5 は、担当教員がサバティカル期間のため鄒笛先生が担当

※2 ……2024 年度の演習 3-1 は、担当教員がサバティカル期間のため休講

【表Ⅱ】研究指導

科目名称	種別	時限	配当学期	単位	担当教員
東洋史学研究指導 2-1、2-2 M	修士	木 4	前・後期	*	柿沼 陽平
東洋史学研究指導 2-1、2-2 D	博士	木 5	前・後期	*	柿沼 陽平
東洋史学研究指導 3-1※ ¹ 、3-2 M	修士	木 4	前・後期	*	飯山 知保
東洋史学研究指導 3-1※ ² 、3-2 D	博士	木 5	前・後期	*	飯山 知保
東洋史学研究指導 6-1、6-2 M	修士	火 4	前・後期	*	柳澤 明
東洋史学研究指導 6-1、6-2 D	博士	火 5	前・後期	*	柳澤 明

※1……2024 年度の研究指導 3-1Mは、担当教員がサバティカル期間のため休講

※2……2024 年度の研究指導 3-1Dは、担当教員がサバティカル期間のため休講

※授業については、授業内容・指導の都合により、連続授業あるいは時限の変更などが行われる可能性がある。詳細は履修登録前に担当教員に連絡をとって確認すること。その他の出席すべき授業などについても、指導教員とコンタクトをとりながら決定するのが望ましい。

■必要単位について

修士課程：上記のコース設置科目のうち 14 単位以上、外国語4単位、それらを含めて全体で 32 単位以上取得。※詳細は研究科要項を参照

外国語は 1 言語または 2 言語で合計 4 単位が必修。

詳細は要項参照。他コース・他研究科・交換協定のある他大学の授業による単位取得も可。なお、単位に関係ない「聴講」もよく行われている。

教職の専修免許を必要とする場合は、コース設置科目（演習・特論）24単位が必要なので、履修時にコース設置科目以外（共通科目・語学など）をとりすぎないように注意。

博士後期課程：取得単位が存在せず、すべて「聴講」となる。

詳細は要項参照。各学期、単位の設定が無い「研究指導D」のみ自動的に履修登録される。また、単位には関係しないが、指導教員の東洋史学演習・特論には「聴講」扱いで参加する例が多い。

※研究倫理教育について：修士論文および博士学位請求論文の提出要件として、日本学術振興会「eL CoRE」（単位非算入、オンデマンド方式）の受講が義務付けられている。原則として、修士課程は【大学院生向け】、博士後期課程は【研究者向け】の講義を各課程の1年修了時まで受講する必要がある。本講義は、理解度確認テストに合格し、修了証書（PDF）を入手することを以て受講完了となる（2024年5月現在）。

詳細は入学後にMy Wasedaや学部事務所からのメール等で告知されるので、確認の上受講すること。

〈参考：2024 年度の講義内容(シラバスより抜粋)〉

○ 柿沼陽平先生

演習 本授業では戦国秦漢時代の出土文字資料を読む。本年度はとくに睡虎地秦簡「為吏之道」と嶽麓書院蔵秦簡「為吏治官及黔首」を逐字的に解読することによって、秦がどのような国づくりを目指していたのかを解明する。中国古代史に関する出土文字資料をどのように“史料化”して新たな歴史学を開拓すべきかを考えるトレーニングとする。演習では各自の作成したレジュメを全員で検討する。

特論 本授業では、『史記』游侠列伝を輪読する。各自担当箇所の訳注を作成し、最終的には学術雑誌への投稿をめざす。

○ 飯山知保先生

演習 家譜などのいわゆる「民間文献」を体系的に購読する。対象とする時代は主に 16 世紀以降とする。文献の購読と関連史料の収集・分析を通じ、「民間文献」の利用について理解する。

特論 海外の研究書を輪読する。研究書の討論に基づき、関連分野の研究を整理しつつ、新たな研究計画を策定することを目指す。

○ 柳澤明先生

演習 【前期】清代の東北（満洲）では、清朝による八旗制を基軸とした統治と、中国内

地からの漢人の移入とによって、多元的・流動的な社会が形成された。清代前期東北の環境や社会・文化の実情を伝える史料は少ないが、中国内地からさまざまな理由で東北に移入した知識人によって書かれたいくつかの著作は、短いながらも貴重な情報を多く含む。その中から、西清『黒龍江外記』を講読する。今年度は、変則的ではあるが、まず巻8を講読した後、巻1に移る。

【後期】清代～近代のモンゴルについては、近年文書史料（檔案）に基づく研究が進展しているが、マクロな政策史・制度史と、特定地域の個別の問題を扱うミクロな社会史に両極化し、地域間・時代間の比較を踏まえた全体像の再構築は今後の課題となっている。本演習では清朝末期のモンゴル南部の状況に対する描写と、モンゴルに関する政策提言が盛り込まれた姚錫光『籌蒙芻議』をテキストとして取り上げ、分担して講読する。テキストの読解自体は難しくないと思われるので、むしろ記述内容を他の関連史料と照合しながら検証していくことが主となるだろう。

特論 【前期】清朝とロシアは、17世紀の最初の接触以来、曲折に富む外交を通じて独特な関係の枠組みを作り上げていったが、その実相を明らかにすることは、清帝国の多元構造を照射する上でも重要な意味をもつ。本年度は、1850～60年代の清－ロシア間の変動を主題とし、この時期に結ばれた諸条約の締結に至る交渉過程・内容・解釈上の問題点などを検討する。

【後期】八旗制は、清帝国の特質を理解するための鍵の一つでありながら、史料上の制約もあって、その全体像の解明は必ずしも進んでいなかった。しかし近年、満洲文史料の活用等を通じて、あらたな角度から八旗制に切り込む研究が現れつつある。そうした研究動向をも踏まえつつ、八旗制の形成・変遷過程を探究する。本年度は、17～18世紀に黒龍江地区で編成されたブトハ組織（ブトハ八旗）とフルンボイル八旗に焦点を当て、その設立過程・制度的特徴・エスニシティとの関係などを検討する。

○ 植田喜兵成智先生

演習 本授業では、古代朝鮮および東アジアの歴史資料として重要な在唐百済・高句麗遺民の墓誌を講読する。春学期には百済最後の王である義慈王の子息・扶余隆の墓誌に対する訳註、秋学期には高句麗末期に活躍した、泉蓋蘇文の子・泉男生の墓誌に対する訳註を行う。中国で出土した百済・高句麗遺民の墓誌は、朝鮮古代史の史料であると同時に、唐代史の史料でもある。墓誌史料の特徴を把握し、正確に読解できる能力を獲得する。

特論 【前期】本授業は、韓国における東洋学、とりわけ中国史学の研究史を概観し、その課題を考察する。戦前（解放前）に日本語で発表された文献、戦後（解放後）に日本語に翻訳された文献、そして大韓民国（韓国）で発表された文献を取り扱う予定である。

【後期】本授業は、新羅社会の身分制度である骨品制について考察する。従来の研究史を整理し、制度の性格を把握しつつ研究課題を追究する。

○ 鄒笛先生

特論 前期は、主に日本の中国史研究の課題を、代表的な論著を中心に引き上げ、現在の学界動向と比較しながら考察する。

戦後東洋史学の研究潮流の変化を段階的に把握することで、受講者が専攻領域のみならず東洋史学全体のなかで、自分の研究課題がどのように位置づけられるかを検討する。

■院生研究会について

東洋史学コースでは、大学院生が専門の枠を超えて交流し相互研鑽を行うとともに、東洋史懇話会運営などコース全体での活動を推進するため、毎週金曜 5 限(17時～18時40分)に、「**院生研究会**」を開催しています。内容は、毎回担当となる大学院生が研究発表を行い、他の院生から質疑をうけるものです。先輩たちの胸を借りる機会でもあり、また普段知らない他分野の知識を得る機会でもありますので、可能な限り参加してください。

■早稲田大学東洋史懇話会・早稲田大学史学会について

早稲田大学東洋史懇話会は、早稲田大学東洋史学コースの教員・大学院生とその出身者有志により構成される学術団体です。東洋史学コースの大学院生は全員この懇話会の会員として、その運営の補助を行うことになります。主な活動は、年 1 回行われる大会（3 月第 3 週土曜）への参加と設営及び会誌『史滴』の刊行です。

早稲田大学史学会は、早稲田大学の 4 つの歴史学系専攻（東洋史、西洋史、日本史、考古学）により構成される学術団体です。院生の入会は任意ですが、会員・非会員を問わず、年 1 回行われる大会（10 月初旬の土曜）の「東洋史部会」への参加と設営に際し、補助をお願いすることになります。部会では例年、主に大学院生が研究報告を行います。

■エクスカージョン（博物館見学）について

5 月の GW 明けの土曜日に、学部アジア史コースの新 2 年生と大学院東洋史学コースの新入生を対象に、エクスカージョンを行います。都内の博物館・東洋史関係の研究所などの見学および、学内でのコースでの学習に関するガイダンスを行います。教員の先生方と語り、また大学院の雰囲気、ワセダの雰囲気を知る絶好の機会です。

■近年の修士論文・博士論文題目

□修士論文（近 2 年間）

- ・唐代藩鎮体制下における仏教政策について
- ・沙陀国家論再考
- ・五胡十六国・北朝時代における学校の基礎的考察
- ・清代「熱河地区」における行政の変遷と住民の再編
- ・両漢交替期における爵制
- ・隋唐代を中心とした諸史料における波斯とその人々の移動
- ・李鴻章と清朝の軍事的近代化
- ・五胡十六国・東晋～南北朝時代における仏教と国家
- ・西周の殷遺民に対する支配について
- ・明代における巡捕組織
- ・金石文を用いた氏族楊氏についての研究

□博士論文（近5年間）

- ・九世紀前半の東アジアにおける国際文書の研究
- ・中国古代における刑徳理論の展開
- ・苗族における伝統社会の変遷とアイデンティティ—貴州高坡苗族を中心に—
- ・新羅・唐関係と百済・高句麗遺民
- ・清代黒龍江水師營の成立と展開
- ・五胡十六国時代における交通・交易と北アジア世界
- ・オスマン陸軍と「匪賊討伐」（1903-1908）」
- ・「文治国家」の存続：南宋初期の軍事過程(1127-1141年)
- ・高麗の国家祭祀と多元的世界観に関する研究— 円丘祀・八閔会を中心に—

■自主ゼミについて

「自主ゼミ」とは：院生による自主的な勉強会。授業を補完し、また学術交流の場ともなります。参加・見学を歓迎していますので、興味があれば代表に連絡をとってみてください。有志を募っての新しい自主ゼミ開催も大歓迎です。

（2024年度の自主ゼミ）

「漢文読書会」（幹事：福島理生 {大学院生}）

「満洲語勉強会」（代表：柳澤明先生）

「朝鮮史料・朝鮮語自主ゼミ」（幹事：韓相賢 {大学院生}） など

■留学について

研究に必要な語学の習得、あるいは実地での研究を行うため、在学中に留学する院生は多数います。2024年5月時点では中国やモンゴルへの留学者がいるほか、歴代の本コース院生の留学先は、中国各地（北京、西安、杭州etc.）、韓国、モンゴル、ロシア、ヴェトナム、インドネシア、イラン、シリア、エジプト、モロッコ、トルコなどから、イギリス、フランス、アメリカなど多岐にわたります。奨学金の情報や生活のアドバイスなど先輩からの手厚いサポートを得ることができるでしょう。

■近年の就職先

修士課程については、教員（公立、私立）を中心に、出版社等、一般企業に就職する人もいます。博士後期課程については、研究職及び教育関係の就職が多いです。

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

戸山キャンパス39号館4階

早稲田大学文学研究科 東洋史学コース室

HP <https://dpt-bun-tousi.waseda.jp/> ※2024年4月よりURL変更

X(Twitter) https://twitter.com/waseda_asia

※東洋史学コースの詳しい情報や開室日程については、上記のサイトを御覧下さい。

不明点や質問があれば、コース室までお問い合わせください。

03-5286-3703（コース室直通）

mi_hirabayashi(at)aoni.waseda.jp（助手：平林 美理）

※(at)は@に置き換えてください。